

修学院小学校運営協議会だより

第31号 学校運営協議会理事長 青木 克之 修学院小学校長 鎌田 賢二



令和7年3月24日発行

春色の候、保護者の皆様には、健やかにお過ごしのこととお喜び申し上げます。平素は本校教育にご協力いただき、誠にありがとうございます。

今回、『修学院こども育みアンケート』にご回答いただきありがとうございました。保護者のみなさまからの評価とご意見を受け、課題をとらえ、その改善に向けて取り組んでいきたいと考えています。今回の結果からぜひご一緒に考えたいという点について、昨年度からの結果を比較しながら紹介させていただきます。多くのみなさまのご意見を大切にし、今後の修学院の教育に活かしてまいります。

貴重なご意見に感謝いたしますと共に、さらなるご理解とご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

学校安全環境委員会 学び支援委員会 開かれた学校委員会

今年度は、学校運営協議会の役員の方々と修学院小学校教職員とで、6月に学校運営協議会を開催し、修学院小学校をよりよい学校とするための話し合いを行いました。

学校安全環境委員会では、10月に学校安全委員会を開き、校内安全点検や安全教育、そして地域の安全点検について話し合いました。また1月の避難訓練(地震)に参加していただき、ご意見を頂きました。

学び支援委員会では、学習活動に関わる支援、子どもたちの学びのサポートとして、2月に6年生茶道教室を実施いたしました。先人から受け継がれてきた茶道の礼儀作法やおもてなしの精神を教えていただきました。

開かれた学校委員会では、年2回実施の『修学院こども育みアンケート』の評価項目の検討・結果の分析を行い、保護者・地域への情報発信として、学校運営委員会だよりを発行しています。

～修学院散歩～

御影祭から葵祭へ

京都三大祭である葵祭が5月15日(木)に執り行われます。その三日前に修学院に隣接した上高野御蔭神社で新たにお生まれになった荒神靈(あらみたま)を神馬で下鴨神社に移し、巡行する御蔭祭が執り行われます。新たに神様がお生まれになることから御蔭神社が所在する丘陵を御生山(みあれやま)と称し、頼山陽が著した「東山三十六峯」の第二峯にあたります。御蔭通の通り名の起源でもあります。葵祭は、御蔭神社から移された下鴨神社の御靈に宮中から供物や舞を奉納する「社頭の儀」のための巡行にあたります。未来永劫、伝えていく神事なのです。



「御蔭神社」

(文責 小池寛)

開かれた学校委員会

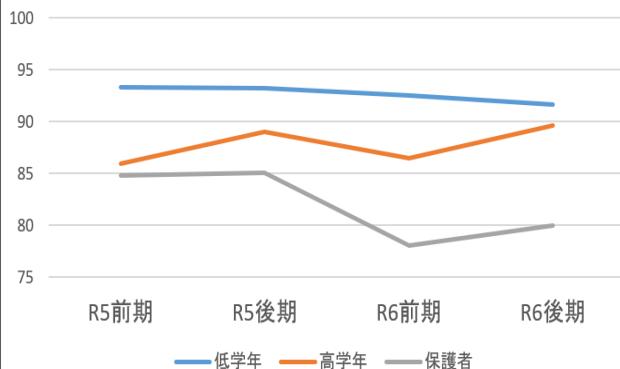
修学院こども育みアンケートより

学校運営協議会の『開かれた学校委員会』において、昨年度からの『修学院こども育みアンケート』結果を比較分析いたしました。アンケート結果を基に、今後の学校の取組に活かして参ります。

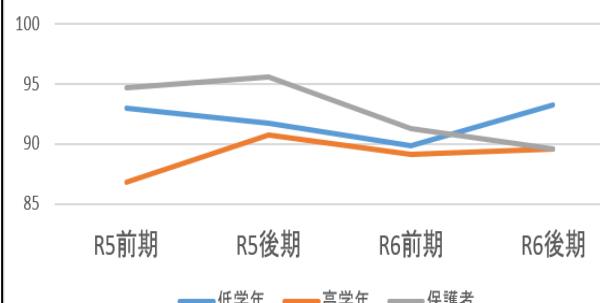
学校運営協議会だよりでは、『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の各項目の「よくできている」「だいたいできている」と回答いただいた結果を分析いたしました。修学院小学校がよりよい学校となるよう、アンケート結果の分析を役立てていきたいと思っております。

確かな学力

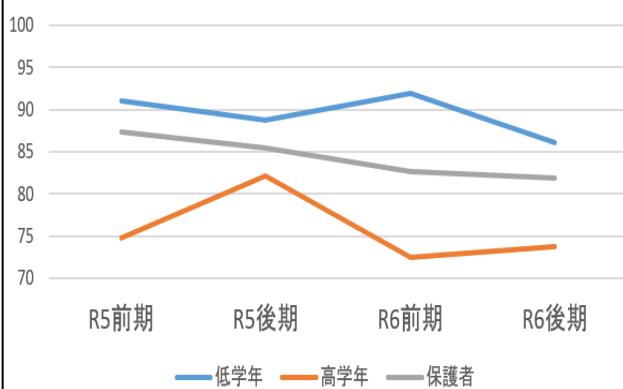
①【児】学校での学習を楽しんでいる。
【保】学習を楽しむことや学ぶことの大切さについて家庭で話題にしている。



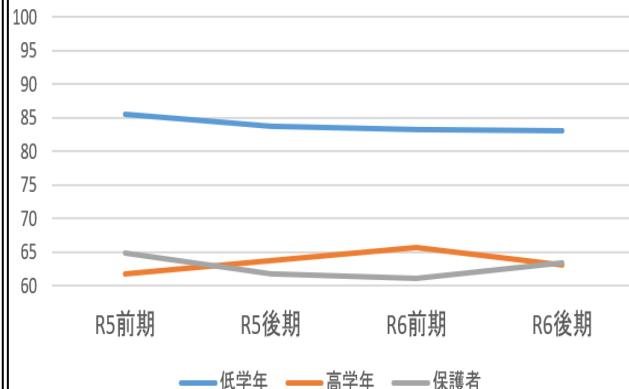
②【児】好きや得意を大切にし、夢中になって教科の学習や活動を進められる。
【保】我が子の得意なことや好きなことを、支援している。



③【児】失敗を恐れず、挑戦することを大事にしている。
【保】我が子に失敗や挫折を咎めたりすることなく、挑戦することの良さについて話題にしている。



⑥【児】学校だけでなく、家でも読書を楽しんでいる。
【保】家庭で、読書の習慣がつくよう、言葉かけや環境を整えている。



<学校より>

『確かな学力』に関する質問項目では、昨年度からいずれの質問にも概ね肯定的な回答を得ています。高学年児童の肯定的な回答の比率が、同じ年度の前期と後期を比較すると、後期に伸びている質問項目が多くありました。

「学校での学習を楽しんでいる」という質問においては、85%以上の児童が肯定的な回答をしており、子どもたちが前向きに学習に取り組んでいることが分かります。

一方で「失敗を恐れず、挑戦することを大事にしている」や「学校だけでなく家でも読書を楽しんでいる」という質問に対する子どもたちの肯定的な回答が低いことが気になります。これらの項目は、子どもたちの成長と学びにおいて非常に重要な要素だと考えております。

まず、失敗を恐れずに挑戦することを促すためには、学校全体で失敗をポジティブに捉える文化を育むことが大切です。教職員や保護者が失敗を学びの一部として受け入れ、子どもたちが安心して挑戦できる環境を作りたいと考えております。

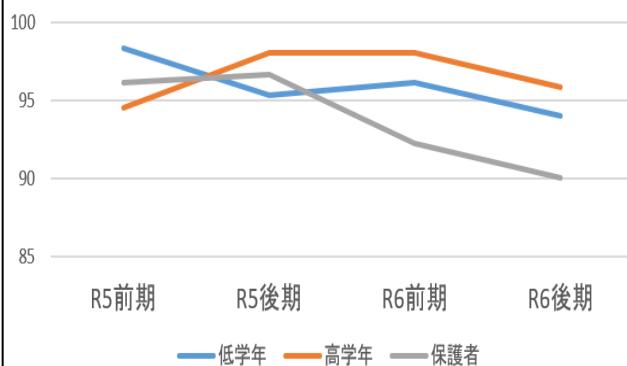
そして、読書の楽しさを広めるためには、学校と家庭が連携して取り組むことが重要だと考えております。学校では読書の時間を増やし、家庭でも読書を楽しむ習慣がつくようにお声かけしていただきますようお願い致します。学校では、火曜日の朝学習の時間に「お話をきらら隊」の方に読み聞かせをしていただいたり、「図

「書ボランティア」の方に図書室の本の整理をしていただいたりして、子どもたちが本に親しむ機会を設けています。また「本のリユース」の取り組みとして、家庭で不要になった子ども向け図書を集め、「リユース図書」として配付することで、読書活動への意欲を高めてきました。

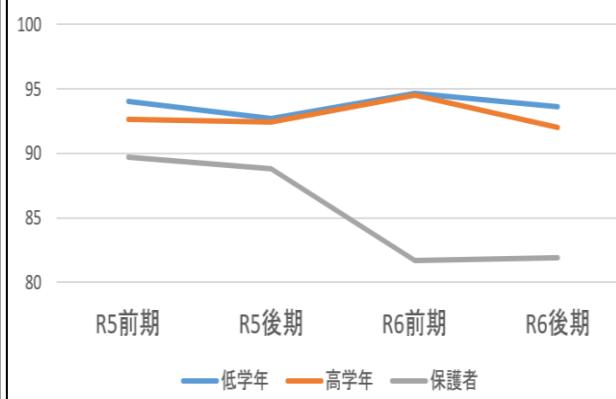
これらの取り組みを通じて、子どもたちがより積極的に挑戦し、読書を楽しむ姿勢を育てていけるよう支援して参ります。

豊かな心

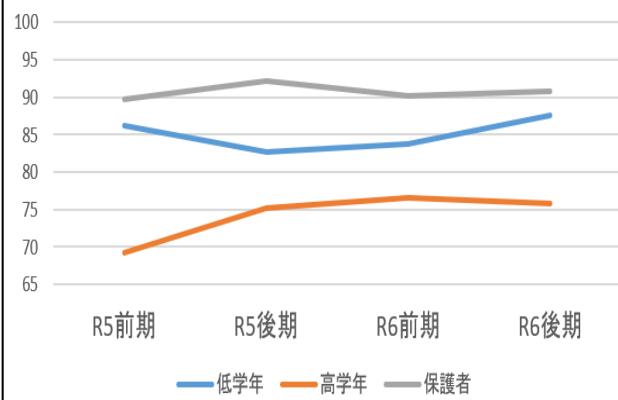
②【児】友だちを大切にしている。
【保】我が子に友だちを大切にし、仲よくするよう働きかけている。



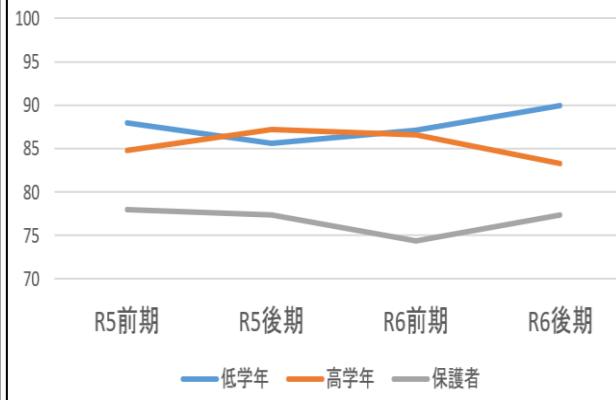
③【児】安心安全を大切にし、社会や学校でのルールやマナーを守ることができている。
【保】家庭内でのルールやマナーを守ることができている。



⑥【児】どんな小さなことでも、学校であった出来事を、家で伝えている。
【保】家庭では、学校での出来事を聞くよう心がけている。



⑦【児】ていねいな言葉づかいができる。
【保】家庭でも人に対して丁寧な言葉づかいができるよう話し、自らも丁寧な言葉づかいを心がけている。



<学校より>

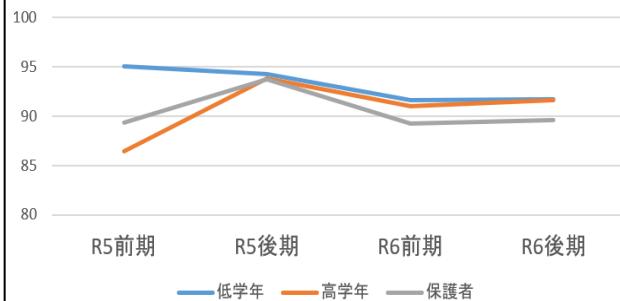
『豊かな心』に関する質問項目においても、概ね肯定的な回答を得ています。「友だちを大切にしている」「ルールやマナーを守る事が出来ている」という質問では、9割以上の児童が肯定的な回答をしています。

「学校での出来事を伝えている」「ていねいな言葉づかいができる」という質問においては、肯定的な回答が他の質問項目と比べ低いことが分かります。子どもたちの言語環境は、周りの大人の言動やテレビ・インターネット等の影響を受けます。周りの大人から、丁寧な言葉づかいで話すことを心がけていきたいと思います。

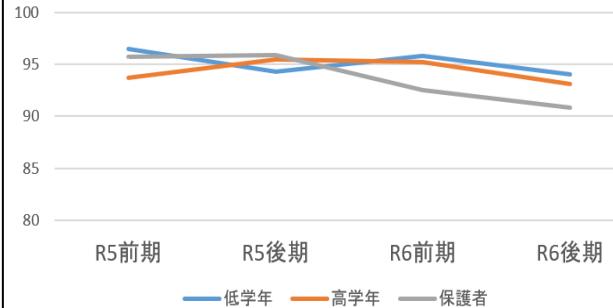
「木は光を浴びて育つ。人は言葉を浴びて育つ」と言われています。素敵な言葉を使い合って、素敵な言葉を浴びていくことで心が豊かになります。そして、人は家庭、学校、地域社会の様々な場所で色々な言葉を浴びて人格形成されていくことがあります。浴びる言葉や浴びせる言葉に少し気を使うだけで、子どもたちの心もどんどん豊かになっていくと思います。素敵な言葉があふれる修学院小学校にしていきたいと思います。

健やかな心と体

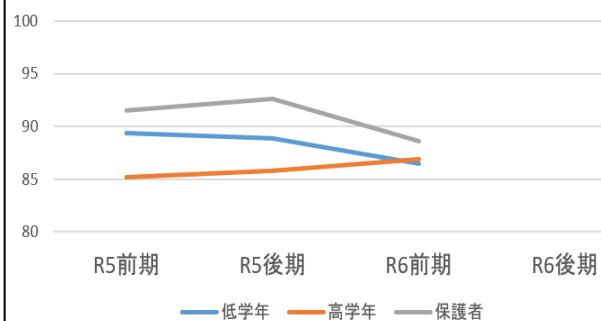
②【児】安全に学校生活が送れるよう、心がけている。
【保】子どもが安全に学校生活を送れるように見守っている。



③【児】交通ルールを守って、安全に登下校できている。
【保】我が子に交通ルールを守ることの大切さについて話をして、自らも守っている。



⑤【児】早寝・早起きをし、毎日朝ご飯を食べている。
【保】我が子が早寝早起きをし、毎日朝ご飯を食べられるようになっている。



質問⑤においては、R6年後期より質問項目を、「早寝・早起き」に関する質問と、「朝ご飯」に関する質問に分けて行いました。結果は、以下の通りです。

(1)「早寝・早起き」

低75.1 高71.5 保76.9

(2)「朝ご飯」

低94.1 高91.4 保90.4

<学校より>

『健やかな心と体』に関する質問項目でも、昨年度からいずれの質問にも概ね肯定的な回答を得ています。「交通ルールを守って、安全に登下校できている」という質問においては、9割以上の児童・保護者が「(よく・だいたい)できている」と答えています。

修学院小学校では、下鴨警察の方やPTA・見守り隊の方々にご協力いただき、1年生では歩き方教室を実施し、登下校の歩き方について学んでいます。また4年生では自転車教室を実施し、安全な自転車の乗り方について、自転車の実技を交えてご指導いただいている。これからも、見守り隊やTEAM SAFFTYの皆さんとも協力し、安全に登下校できるように指導して参ります。

「修学院こども育みアンケート」によせて

学校運営協議会「開かれた学校委員会」では、年に2回、アンケートを行っています。

今般、いずれの項目でも肯定的に捉えている回答の比率が高く、修学院小学校の児童を取り巻く環境が良好であることを示していると思います。しかし、家庭内での読書習慣については、低学年は85%を維持していますが、高学年は60%であり、家庭における更なる取り組みが必要ではないかと感じております。また、朝食の摂食は90%以上ですが、早寝・早起きは75%であり、近年、社会問題になっておりますSNSなどの利用をめぐる悪影響を懸念しております。引き続きの取り組みの必要を教職員・ご家庭に問題提起させていただきます。

近年、アンケートがMicrosoft Formsによる集計に変わり、回答率と自由記述が激減しております。お寄せいただきましたご意見は、開かれた委員会において、校長や教務主任などの先生方とも共有・検討しておりますので、ぜひ、お寄せください。

(文責 協議会理事 小池寛)